

第6回 令和5・6年度武蔵野市長期宿泊体験活動検証委員会概要

1 議事の報告（委員の主な意見）

(1) 令和5・6年度長期宿泊体験活動検証委員会報告書について

①「体験活動の系統性・発展性や小中連携について」

- ・「今後の方向性」にある「さらに作成・整理する」のイメージとしては、「作成・整理」を指導課が進め、校長会を通して学校の先生方に意見を出してもらいたい。来年度中に、中学校3年生までに育成を目指す資質・能力の系統表を完成させるのはどうか。
- ・学習指導要領の改訂を見据えて整理する必要がある、出てくるキーワードに注視していくとよい。
- ・教育課程届説明会にて、すでにこの表を説明しており、来年度の計画にいかすように説明している。

②授業時間の適切な配当について

- ・直接学校に問い合わせがいかないために、学校名でなくアルファベット記号として表記した意図は分かったが、時数の多い学校順にすることや各図の整合性をとることが必要ではないか。
- ・授業時数特例校制度について、わからない人もいると想定されるので、正式な名称や説明を加えるとよい。

③教師の働きかけについて

- ・アンケートについて回答が4段階であったなど形式を示すこと、アンケートの項目や内容がわかるようにするとよい。
- ・生活指導員に対してめあてや目標がはっきり分かると、見守る場面や介入する場面が判断しやすいのではないか。学校によってはすでに示しているのでも、報告書に分かりやすく明記する。

④評価について

- ・令和4年度と令和5・6年が別々のグラフに示されているので、まとめて掲載し、経年変化が分かるように示していく。
- ・この「生きる力」の測定・分析ツールに対して、育成を目指す資質・能力に即した調査になっていないため調査自体を検討することが必要とあるが、ふさわしくないのではなく、本事業と本調査項目が合わないと捉え、記述した方がよい。

⑤実施日数について

- ・5泊6日と6泊7日の日程について、比較・検討が必要なことは理解する。検証委員会の今までの議論を踏まえると、課題を十分検討・検証すべきではないか。
- ・5泊6日と中身が変わらないなら、負担感や世の中の時流として5泊であり、6泊を実施することは課題が多いというのが委員会の意見の大勢であったと思う。
- ・期間が延びることを喜ぶ子がいる一方で、精神的・体力的な不安が増す子など、子どもへの影響を考慮しないといけない。
- ・同じ年度内に泊数が違う学校があることについて、保護者や教員に6泊7日とする合理的な理由を

説明する必要がある。

- ・「今後の方向性」の枠外に、指導課から6泊7日との比較検討するという意見があったと表記してはどうか。

#### ⑥生活指導員の確保について

- ・学校は、よりよい指導員に来てもらいたい。例えば、大学からの生活指導員への働きかけとして、教授が事前に学生に対し目的などをレクチャーして、自覚を高めた事例があった。このような効果的な取組を推進していくとよい。

#### ⑦まとめについて

- ・安全で円滑な情報共有から発展させた記述として、非常変災時の連携や安全の確保について明記したということだが、「非常変災時」という言葉が難しいので地震や台風といった分かりやすい表現にするとよい。
- ・持続可能な事業としていくためにこれまで議論してきた面もあるので、現地の宿泊施設に対する改善などといった点も入れるとよいのではないか。